びわこ学園
後援会ニュース
for a bright tomorrow

No. 124　2022年１月１日発行
びわこ学園後援会事務局
〒520-2321　滋賀県野洲市北桜978-2
びわこ学園医療福祉センター野洲内
ＴＥＬ(077)587-1144　FAX(077)587-4211
ホームページ：http://www.biwakogakuen.or.jp
発行責任者　島田　司巳
編集責任者　田中　　貢

写真提供：びわこ学園医療福祉センター草津　第２病棟看護師　大迫　孝司氏

明けましておめでとうございます

皆様方には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

後援会は過去２年余りコロナ禍のため三密回避を厳守し、諸行事を控えてきました。このため会員相互の対面の機会もなく、心晴れぬ日々をお過ごしの方も多いかと拝察しています。

昨年はコロナワクチン接種が進み、秋頃から新規感染者も急減しておりましたが、年末にはまた新たな変異株オミクロンが出現し、今後の動向が気がかりです。国を挙げての感染防止施策により感染の大波が阻止されることを願うばかりです。

後援会には各種学園行事への支援、環境整備、広報等など、会員が協働して進めなければならない課題が多く残されています。

皆様方のご健勝をお祈り申し上げますと共に、今年こそ皆様と共に楽しい後援会活動が叶う年になることを願っています。

びわこ学園後援会会長　島　田　司　巳

ご支援ありがとうございます
～各施設で開催されたイベントへの助成報告～

びわこ学園後援会事務局

今年度も新型コロナ禍の中、職員さんの創意工夫により、それぞれの施設でイベントが開催されました。びわこ学園後援会では皆様からいただいた会費やご寄付の一部をイベントの運営助成として活用させていただきました。

ここでは、各施設事務局からご支援いただいている皆様へ一言お礼をお伝えさえていただきます。

医療福祉センター野洲　学園祭

感染症対策の下、10月24日に学園祭を開催し、古墳広場ではHAMORI-BEさんのコンサートが行われました。去年の学園祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止していたため、２年ぶりのコンサートで、童謡が大好きな利用者さんたちはうっとりと瞳を閉じたり、思わず声を出して笑ったりと満喫されているようでした。今回も後援会をはじめ、ボランティアさんやご家族の皆様に来ていただくことは叶いませんでしたが、皆さまのお心遣いに感謝しております。

（びわこ学園後援会事務局　医療福祉センター野洲　吉岡）

知的障害児者地域生活支援センター　おまつりはうす

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、「おまつりはうす」は中止となりましたが、今年度はコロナ禍の中で工夫を凝らし、11月１日～11月５日まで「やまびこ総合支援センター」館内で「おまつりはうす」を開催しました。自分の顔がさかなになって泳ぐ様子をスクリーンに映し出して楽しんだり、オンラインでさくらはうすを卒業した方々を結び、お互いの元気な姿を確認するなど､利用者・職員が一緒に楽しむことが出来ました。また、明日都浜大津の会場をお借りして、普段の活動の中で生まれた作品を展示するなど、地域とのつながりが図れる「おまつりはうす」となりました。実行委員のみなさま、お疲れ様でした。びわこ学園後援会からもご支援を賜り、ありがとうございました。

（びわこ学園後援会事務局　知的障害児者地域生活支援センター　田中）

医療福祉センター草津　秋祭り

今年も感染対策を徹底した中での“秋祭り”となりました。“中止”という考え方よりも“実施するために何をするか”を大切に考え工夫して開催することができました。一年ぶりの家族や関係者との再会に、利用者さんの笑顔や涙があふれる場面も見受けられました。

様々な課題がある中、毎年“秋祭り”を開催できるのは、後援会をはじめとする大勢の方々のご理解、ご協力をいただけるからであり、そのお気持ひとつひとつに感謝しております。

（びわこ学園後援会事務局　医療福祉センター草津　阿部）

ことばの絵の具箱

お食事を通した利用者さんとの関わり

びわこ学園医療福祉センター野洲　作業療法士　畑（はた）　智子（ともこ）

びわこ学園医療福祉センター野洲には、人と関わることが大好きな学園最年長88歳の利用者さんが、毎日笑顔いっぱいに過ごしておられました。いつも過ごした場所で、たくさんの人にあたたかく囲まれて、令和３年９月29日に永眠されました。

早速ですが、みなさんは「人生最後をどんな風に迎えたいか？」考えたことはありますか。この利用者さんはご高齢であり、日常生活を含め最後を見守る準備としてAdvance Care Planning（以下ACP）をもとに将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて（本人さんはどうおもてはるんやろ）と考え・想い、多職種で繰り返し話し合うことを続けてきました。話し合いの中で、具体的なACPの内容の一つに「本人さんの状態に合わせながら、お食事をすすめます。食事中の関わりを大切にします。」が挙がりました。お食事への関わりを持たせて頂いたことを少しですがここに書かせていただきます。

私がよく関わりを持たせていただく様になったのは４年前からです。職員が親指と人差し指でつまめる大きさに握った海苔巻きおにぎりやおかずをご自身で食べることが難しくなってきた頃でした。当初は姿勢や食具を工夫することで、ご自身で食べることができました。少しずつ、手を使うことが難しくなり、徐々に職員の介助で、やわらかいスプーンを使って食べるようになられました。昨年度の10月に肺炎に罹患され、それからはベッドでのお食事となりました。脈拍や酸素飽和濃度などを確認し、ご本人さんの様子により配慮をしながら、無理のない範囲でお食事をすすめました。好きなメニューの日や食事時の職員の関わりにはいつも笑顔があふれる時間となっていました。

来て欲しくない（その時）がいよいよ近づいてきた時、この利用者さんにとって「食事とは？」「人生最後をどんな風に迎えたいか？」を改めて多職種で何度も話し合いしました。振り返ると、お食事だけではなく色んな事が難しくなり揺らぎやすくなっていた４年間でした。体力的な部分で、お食事の形態やその量、お食事を摂る姿勢は変化しました。しかし、食べたい・食べたくない・おいしい、１日の中で人と関わるこの時間もたのしい！の意思表示はご様子からしっかりみられていました。水分補給を入れると１日６回の食事時間は栄養を補う時間であるとともに、彼女が大好きな人と【対面】で関わるとても大切な生活の時間であったと考えました。このことから最後の日まで、食べることは徐々に難しくなりましたがお食事は配膳されました。最後まで、いつも誰かが彼女と対面で関わるあたたかい時間となっていたと思います。

お食事での関わりを大切にしてきたところから「最後の日になったら何を食べたいか」についても彼女を想い・考えながら多職種でメニューを話し合いました。いつも召し上がっておられた海苔巻きおにぎり、お口に入ると笑い声がもれることが多かった大好きなお肉、七夕メニューの時にとても喜んでおられた天ぷらを味わう会を開きました。いつものお部屋で、いつも一緒にご飯を食べている利用者さんと、大好きな職員の介助の下で味わうことが叶いました。少しずつでしたが、しっかりお口を動かし味わっていらっしゃった様子は今でも忘れられません。この翌日、とてもきれいなお顔で旅立たれました。

私は関わらせていただく中で、作業療法士としても人としてもたくさんのことを考え、学び、教えていただきました。この経験を忘れず、これからの日々に活かしていきたいと思います。

たくさんの感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、本当に、ありがとうございました。

びわこ学園ＯＢ通信

びわこ学園は人を育てる力をもっている

元社会福祉法人びわこ学園法人事務局長　西島（にしじま）　悟司（さとし）

●　私が、大津市の長等にあった第一びわこ学園に着任したのは1973（昭和48）年。もう49年前になる。自分が歴史の出来事のなかの一員になったかのように思えてくる。岡崎先生が亡くなられたのは1987（昭和62）年だから、今働いておられるびわこ学園職員のほとんどが「岡崎先生を知らない世代」ということになる。えらいこっちゃ。

私は、大学生活に行き詰まりを感じ、３回生になるときにⅠ部（昼）からⅡ部（夜間）に転部した。そして京都市内の会社で働き出した。これからどんな仕事をしていくか考えるようになり障害児者施設で就職できないか、さがしはじめた。びわこ学園を知ることになり、1973（昭和48）年９月のある日、第一びわこ学園（現びわこ学園医療福祉センター草津）で面接を受けた。当時の事務室の一角の応接セットで２人の中年男性が座っていた。１人はネクタイ姿、もう１人はカッターシャツのラフな姿。後から知ったが天谷庶務部長と岡崎園長だった。「すぐ来てくれ」というので、９月中に引っ越した。友人に軽トラを出してもらってわずかの荷物を、第一びわこ学園の敷地の一番高いところにあった「仮寮」という男子の職員寮に運んだ。元あざみ寮の工房だったものを、合板で仕切って部屋をつくった文字通りの「仮寮」だった。

●　10月には職員として働き出した。当時の第一びわこ学園は北病棟と南病棟があったが、子どもたち（ほとんどが子どもだった）は両病棟合わせても52、3人、１つの病棟に26人程度というこぢんまりした規模だった。それぞれの病棟に３つの生活グループがあり、私は北病棟の「リスグループ」に配属になった。

とにかく楽しかった。就職当初は、「子どもと遊んで給料をもらっていいのか」と思ったほどだ。「楽しい」と思えたのは、自分に水が合った、というよりは、職場がよかったということだと思う。自由な雰囲気があり、職員たちはやりたいことがいっぱいあった。

仮寮から見た第一びわこ学園、奥が比叡山
（1974（昭和49）年）

昼食時の北病棟・中庭（1976（昭和51）年）

労働組合や全障研サークルの活動も活発だったし、「寮自治会」もあった。当時、第一びわこ学園には敷地内にいくつか職員の寮が点在していたが、月に１回、それぞれの寮のメンバーが料理を作ってみんなで食事する、というものがあった。職員、特に病棟職員の多くは寮暮らしだった。通勤時間は１分、夜出かけるところはそんなにあるわけではない。（すぐ近くに商店街があったが、思えばこの頃は夜７時にもなれば店が閉まり、スーパーの西友は水曜日が定休日、たぶん夜に買い物したり食事する場所（飲み屋以外）はほとんどなかった気がする。）

だから、この時期、同僚と話す時間はふんだんにあったように思う。職員は利用者のことについて話す「グループ会議」が深夜に及ぶことにもさして抵抗はなかった。私自身は、就職してまもなく組合の役員になったが、水曜日の夜は執行委員

南病棟「うさぎグループ」（1988（昭和63）年）

会、木曜日の夜は職場の全障研サークルの勉強会があった。加えて、就職して１年半は、週に何回か夜に大学に通っていた。人生の中で一番勉強した時期かもしれない。

●　それから17年、第一びわこ学園は1991（平成３）年６月に草津市に移転した。私は６月末で職場を離れた。17年半在籍した。1990（平成２）年には「移転開設準備室」に異動になっていたから、一区切りついたところで退職したということになる。移転前は本当にうまく移転できるのか、自分の中では不安だらけだったが、楽しい記憶もある。前々号のこの欄で西野裕之さんが「移転の１か月前くらいになると、定時に仕事が終わった後……引越の手伝いをするようになりました。」と記していたが、もう30年になるのにこの時の記憶は鮮明だ。

移転の日、バスを見送る（1991（平成３）年）

夜な夜な、何人かで集まって長等のびわこ学園で荷物（ラックや書類）を積み込み、草津へ運ぶ、ただそれだけのことだが、妙に自由だった。こんな時間はもう経験しないのではないか、と思うほど楽しかった。気があった面々だったのかもしれない。

●　私が着任した1973（昭和48）年は創立10周年の年だった。この時期、全国の重症児施設で職員の「腰痛問題」が深刻になり社会問題にもなった。『びわこ学園の15年』誌には、「昭和48年８月７日園長、父兄会長に対し園児の一時帰宅（退園）問題について申し入れる。」とあるから10周年どころではなかった。開園の翌年1964（昭和39）年から発行された「びわこ学園だより」は1967（昭和42）年の第８号で止まり、1978（昭和53）年８月に第９号が再刊されるのだが、その中で当時の岡崎園長はその10年の苦労について「借金問題」と「腰痛症の問題」を語っている。

1973（昭和48）年以後、運営はある程度安定する。翌年のオイルショックを経て時代は「福祉見直し」「施設福祉から在宅福祉へ」が色濃くなってくる。1977（昭和52）年に髙谷清医師が着任する。それから移転までの14年間、（第一）びわこ学園の運営に、髙谷先生が果たした役割はとても大きい、と私は思う。中堅研修の開催や研究誌の発行など、職員の間に新しい風を起こした。制度の変化ともあいまって、1977（昭和52）年の外来診療の本格的再開、1978（昭和53）年２月からの「緊急一時保護制度」など、いわば外に向けた活動をすすめた。

さらに、1979（昭和54）年11月に始まる「びわこ学園の将来構想」の検討、1982（昭和57）年11月に始まる「ありがとういのち　市民サロン」～1987（昭和62）年11月の「抱きしめてBIWAKO」の開催、そして移転に連なる動きをリードした。

私が第一びわこ学園にいた1973（昭和48）～1991（平成３）年は、運営の危機を脱しある程度落ち着き、「地域福祉」へのウイングを広げ、将来構想の検討を始め、移転新築という形で一応の決着をみるまでの17年間という時期になる。

●　1991（平成３）年に退職し、10年間２つの老人福祉施設で働いた。ここでの仕事も新鮮だった。高齢者の分野はやや抵抗があったが、行ってみるとすぐに入所している皆さんに愛着がわいた。「好き」というのではないが一緒にいるのが楽しかった。おぼろげながら、「利用者」にたいする愛着こそが施設や法人への思い入れにつながるのではないかと思った。

2000（平成12）年にはもう一度びわこ学園の職員になった。大津市膳所にオープンしたやまびこ総合支援センターの配属になった。前の２つの老人施設も新規開設だったが職員の構成には大きな違いがあった。やまびこの方が、圧倒的に年齢が若く、学歴が高く、他府県出身者が多かった（住宅手当を受ける職員の多さに驚いた）。ここもま

た、私にとってとても魅力的な職場だった。みんながそう思ったかどうか、私としては、すこぶる自由で活気に満ちた場だと感じていた。

その後もいくつかの社会福祉の職場で働いた。どちらかといえば運営する側の立場だったが、どこにいっても「職員の育成」は大きなテーマだった。今、あらためて思うのだが、「人材育成システム」とかいろいろいうが、結局のところ、人は職場で育つのであり、そういう意味では「職場づくり」こそが一番の肝なのではないか。私の場合、その出発点はびわこ学園に就職した時だと思う。

私は、びわこ学園で育ててもらい、仕事について教えていただいた。あらためて皆様にお礼申し上げます。

北病棟（1987（昭和62）年）

南病棟のプレイルームで影絵（1986（昭和61）年）

第一びわこ学園職員の野球チーム（1988（昭和63）年）

西島さんには、びわこ学園就職時から今日まで、公私に渡ってお世話になってきております。このOB通信シリーズのトリを飾っていただこうと無理を承知でお願いしたところ、快諾してくださいました。本文中に書かれている移転の引っ越し作業は、私も楽しい思い出として残っています。他にも「湖水浴」「夏祭り」「運動会」「餅つき」「抱きしめてBIWAKO」、それに職員有志で行った「山登り」など、びわこ学園での思い出は尽きません。本当にありがとうございました。　（びわこ学園後援会事務局　田中）

みなさま、いつもありがとうございます

後援会会費納入者ご芳名

★2021年8月1日～2021年10月31日受付分　（敬称略、順不同）

［2021年度分会費］

濱田多惠子　小菅　康子　冨田冨士江　古家かつ江
髙橋　博美　森　哲弥　森　富佐子　永﨑　久雄
久木　憲治　坂口　博昭　坂口　春江　久保　厚子
竹内　信子　北川　一二　前田　容子　後藤　敏子
立岩　祥子　大谷　晃昭　孤渓佳世子　村上　陽子
豊島　史子　島田　司巳　島田　寛子　植松　潤治
村田　勲　桜井友次郎　磯　春樹　將亦冨士夫
加山　紀美　小池恵美子　山田百合子

［2022年度分会費］

今江　重　古寺　恵子　林　和子　村木　弘富
髙橋　滋　大谷　晃昭　住友あや子　水谷　睦美
山本　順子　西川　勇　藤森　了堅　大橋　史子
今江　啓子　南　安次　加山　紀美　杉本　直樹・住子

後援会寄付金納入者ご芳名

★2021年8月1日～2021年10月31日受付分　（敬称略、順不同）

若杉　安雄　若林　登子　古寺　恵子　寺田　義明
塚本　章子　草野　文嗣　堀井　三正　粟津　順子
植松　潤治　細江　卓朗　松戸クリニック（丸山　博）

後援会会費・寄付金納入者累計

		区　分	当期受付分	累　計
会費	2021年度分	会員数	31人	240人
		口　数	33口	284口
		金　額	102,000円	865,000円
	2022年度分	会員数	16人	35人
		口　数	17口	38口
		金　額	51,000円	115,000円
	2023年度分	会員数	0人	3人
		口　数	0口	3口
		金　額	0円	9,000円
	2024年度分～2026年度分	会員数	0人	4人
		口　数	0口	4口
		金　額	0円	12,000円

	区　分	当期受付分	累　計
後援会寄付金	会員数	11人	29人
	金　額	344,000円	512,000円

びわこ学園後援会では会員を募集しています！

びわこ学園後援会は「この子らを世の光に」という理念のもと、重い障害を持たれている方がたへ支援しているびわこ学園の事業支援や事業理解をより多くの方に拡げていくことを目的に活動しています。

この活動趣旨をご理解いただき、ご賛同いただける方を募集しています。

ご入会していただくと

1．びわこ学園後援会ニュース、びわこ学園だよりを送付します（年３回）。
2．医療福祉センター野洲の「夏祭り」「学園祭」、医療福祉センター草津の「秋祭り」の模擬店チケットの進呈。
3．両センターが企画する「公開講座」をすべて無料で受講できます。
4．びわこ学園実践研究発表会聴講が無料になります。
5．びわこ学園記録映画「夜明け前の子どもたち」「わたしの季節」のDVDを販売価格から一割引き（￥5,000⇒￥4,500）で購入できます。

会費

個人：3,000円　　法人・団体：30,000円（年一口）

ご入会の手続きについて

下の振込取扱票を切り取っていただき、必要事項をご記入の上、郵便局で手続きをお願いします。（手数料は無料です。）

また、振込取扱票が無い場合は、直接事務局宛にご請求下さるか郵便局に備え付けの振替用紙に以下をご記入の上、手続きをお願いします。

（口座番号　01080　2　9958　社会福祉法人　びわこ学園後援会）

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

02　大　阪

払　込　取　扱　票

通常払込料金加入者負担

口座番号	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
0 1 0 8 0 ー 2 ー　　9 9 5 8		※							

加入者名　社会福祉法人　びわこ学園後援会

料金　　備考

通信欄

※
1．びわこ学園後援会会費　　年度　　口　　円
2．びわこ学園後援会寄付金　　円

紹介者

ご依頼人

※（〒　　－　　）
おところ
おなまえ
（電話　　－　　－　　）

日附印

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号京第2567号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号	0	1	0	8	0	ー	2		通常払込料金加入者負担
				9	9	5	8		
加入者名	社会福祉法人 びわこ学園後援会								
金額	千	百	十	万	千	百	十	円	
	※								
ご依頼人	おなまえ ※								
料金		日附印							
備考									

記載事項を訂正した場合は、その個所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

ホームページ・フェイスブックのご案内

びわこ学園、びわこ学園後援会では、年３回の広報誌だけでなく、ホームページやフェイスブックで各所からのご案内や日中活動の様子などタイムリーな情報を発信しています。

既にご覧になられている方も、まだ見たことがない方も、是非ご覧ください。

●びわこ学園ホームページ

https://www.biwakogakuen.or.jp/#menu-close

●びわこ学園後援会

https://www.biwakogakuen.or.jp/publics/index/386/

●びわこ学園後援会Facebook

https://www.facebook.com/biwakogakuenkouenkai?ref=aymt_homepage_panel

編集後記

新年あけましておめでとうございます。２年に渡るコロナの災禍もようやく下火になり、少しずつ日常に戻りつつありますが、ここに来て、新型の変異株の存在が取り沙汰され、まだまだ予断を許さない状況にあります。

さて、2022年の干支は壬寅（みずのえとら）になります。年男の私は、縁起の良い年になりそうだと少しワクワクしているところですが、調べてみると「寅年生まれは、勇敢な性格と優れた行動力で何事にも恐れず立ち向かい、強い信念をもって物事に挑戦していく」と言われており、自分との余りにも大きな違いに愕然としているところです。それでも、年男の今年は、信念を持って新しいことに挑戦していこうと意気込んでいるところです。

※５年に渡り担当させていただきました編集担当は今回で卒業となります。長い間お付き合いいただき、ありがとうございました。（T）

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
5万円以上
貼　　付

印

この場所には、何も記載しないでください。